

**○委員長（山口 勝彦）**

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

---

1 調査事件

(1) 地域の人手不足に対する取り組みについて

**○委員長（山口 勝彦）**

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、8月28日開催の委員協議会において本委員会の調査事件としたところである。協議会でも確認したとおり、本日は本市の人手不足の現状等を補足できる資料の説明を受けることとしている。資料については配付しているとおり、人手不足の現状等に加え、6月定例会の予算特別委員会経済建設分科会や先日の予算決算特別委員会経済建設分科会の決算審査において、若者の地元就職の取り組みについて各委員から発言もあったので、改めて正副から説明をお願いした。
- ・ それでは、経済部の入室を求める。

(経済部 入室)

**○委員長（山口 勝彦）**

- ・ それでは、資料の説明をお願いします。

**○経済部長（氣田 聖大）**

- ・ 本日も議題となっている地域の人材不足に対する取り組みということで、現在あらゆる業種で人手不足が深刻化している状況である。また若者の地元定着こういったものが課題だと捉えている。短期的に取り組むもの、長期的にわたって取り組むものが必要だと思っている。いずれも社会経済情勢が変化をしている中で、そういった変化に対応しながら施策も変化させていかなければならないと考えている。全国においても人手不足が課題である中、様々な取り組みが行われているが、函館の地域のニーズに合った取り組みが必要だと考えている。いずれにしても地域の声、ニーズや委員の皆様の意見も聞きながら取り組んでまいりたいと考えている。
- ・ 本日お配りしている人手不足の解消に向けた取り組みという資料で、市の現状などを中心に雇用労政課長から説明させていただくのでよろしくをお願いします。

**○経済部雇用労政課長（山村 英次）**

- ・ 資料説明：「人手不足の解消に向けた取り組みについて」（経済部調製）

**○委員長（山口 勝彦）**

- ・ 各委員から確認したい点等あるか。

**○板倉 一幸委員**

- ・ 今日の資料にもあったが、人口減少が進んでいるということで、生産年齢人口が年々減少している。そういった人口が減っているということを私もこの間の推移は見ていた。5年ごとの国勢調査の数字でいっても、5年間で15歳から64歳の人口が1万7千人から多いときには1万9千人から2万人近い数が減っているということで、なかなか労働者の確保、総体の確保という面でいくと厳

しいところもあるなど。今、市も人口減少対策本部を立ち上げてその問題に対してどうしていくのかという総合的な考えで取りまとめていくのだろうと思うが。

- ・ 今日の話の中で有効求人倍率の話があった。他の地域と人的な競合というか——例えば、今札幌では新幹線工事、それから駅前再開発を行うところで、建設労働者の有効求人倍率が7倍くらいあるとかって話を聞いたが、そうするとどんどんそちらに労働者が持っていかれて、ひいては、樺二森屋の再開発のようにそういったものが順調に進んでいかないというような影響を受けるのではないかと思うが、その辺の人的な競合どうしていくのかというようなところはお考えがあるのか。
- ・ それから外国人労働者の活用。こういったものについて市としてどういう考えあるいはどういう考えの基に取り組んでいくのか、今時点で何かお考えはあるか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ 委員おっしゃるように、今まさに道内各地で人材のパイの取り合いというようなところもあるのかなど。実際に先ほどの資料の中でも、建設の職業はやはり1倍を大きく超えている。そういった中で、函館のまち、そして函館の企業が選ばれるためにはどうすればいいのか。それはお給料だけなのかどうなのかってところが一つあるのかなどというところはある。
- ・ 調査結果の項目の一つに、D Iということで、若手社員に対して、実際に入る前、働く前に期待していた数値よりも、期待通りだったか、期待を上回っていたか、期待を下回っていたかというところを聞いたところである。全ての項目で期待を下回るよりも上回る方が多かった。ただその中で、期待を下回っている項目が2個あった。非常に興味深いと思ったのが、賃金というのは当然労働基準法上で明示しなければならないものだから、入る段階ではそこが期待を下回ることはないと思っている。となると、思っていたよりも定期的に昇給がないということの現れなのかなど。そして休暇の取得のしやすさ。これも休暇に関しては当然明示事項になっているので、どれだけ取れるかっていうのは分かっている。ただ実際に働いてみたら取りづらいう状況だったということが結果的には下回っている。そういった部分というのは求人情報だけではやはり分からないと思う。そういった部分も踏まえて、賃金だけではない働く職場の雰囲気だとかそういったものを含めてこちらの方から御提示できるとまた違ってくるのかなというふうには思っている。
- ・ 外国人の部分に関して、外国人採用相談窓口を開設している。問い合わせが多いのは技能実習とかそういった部分だが、昨年24件問い合わせをもらったが、採用するためにはどうすればいいのかという初歩的な部分を教えてほしいってところがほぼほぼの状況であった。まだ外国人を採用するというところの流れが分かっていない企業も多いのかなどというところもあるので、引き続きそういった部分でも採用相談窓口というところで活用していただきたいと思っている。

#### ○板倉 一幸委員

- ・ これからいろいろと調査していく中で議論ができるだろうと思う。
- ・ 大変重要な取り組み——予算の額だけで申し上げるつもりはないが——労働費全体では本年度当初予算でいくと1億4,200万円ほどだが、果たしてこれが妥当なのかどうか。やっぱり人を育てていくとか、人的な企業の魅力を高めていこうとかそういった取り組みをもっと深めていくと、予算をもっとつけていくということも必要ではないかと思う。
- ・ 決算のときにも申し上げたが、今宿泊施設だとか、——昨日観光税のことで団体から要望が出てい

たけれども——そこで働く皆さんは厳しい状況の中で働いていらっしゃるって、人材も集まらないと。人のやりくりもそれぞれの施設ごとというか、事業所ごとにやりくりが、貸したり貸されたりというような状況を作りながらやっていくという話を決算のときに申し上げたが、そういったことも少し力を入れてやっていく必要があるのではないかと思っている。

#### ○池亀 睦子委員

- ・ 15ページですが、若者の地元就職促進に向けた施策ということで、しごとフェスタこれは非常にいいなと思った。このアンケート調査をみても、自分が望む仕事が函館にない。この知る機会というのをどんどんやっていくべきだと思う。
- ・ 函館市内におけるインターンシップはどれくらい行われて、今伴走型っていうことが非常に重要視されている——子育て支援なんかでも——この辺もどれくらいどういう感じでやっているのか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ インターンシップの実施の件数だとか、そういった詳細の部分は押さえてはいないところである。高校独自でやっているケースもあるし、大手の民間就職情報サイトの1つに聞いたところによると、大きな話になってしまうが、道内でいくとやはり渡島地域というのはインターンシップはそれほどやられていないというのは聞いている。やはり札幌だとかあちらの方はそれを契機にというようなところも含めて一歩進んでやられているところもあるので、それも含めて今回こういった形での事業をやらせていただくが、これを契機にもっとインターンシップを広めていきたいなというふうに思っている。

#### ○池亀 睦子委員

- ・ 例えばアルバイトに行ったり、また見学に行ったり、インターンシップまでいかなかったとしても、何か少しでも経験することで仕事の価値とかちょっとした達成感だとか、子供たち純粋なので、そういうところから糸口があるのかなと。
- ・ よく子供たちが一番言うのは、お給料のこと意外に言わないが、土日休める、これが条件が第1位になったことがある。函館市内の土日、週休2日制の状況は分かるか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ こちらもちょっと具体的な数字は申し上げることができないが、ハローワークの方とも話をしている中でこのことと言うと——ハローワークの方というのは道内各地でいろいろ転勤してらっしゃるので——函館は土日の休みが少ない職業の方が多いっていうのは言われていた。数値的なものではお示しできないが、観光客というところで、土日こそ稼ぎ時だということもあるので。体感的な部分でいくと土日休みの職業というのはそんなに多くないのかなというところである。

#### ○池亀 睦子委員

- ・ 稼ぎ時といっても就職を希望する人たちは交代でもちゃんとひと月に土日1回は休めるとか、その辺のミスマッチが、しっかり血液が流れていかないっていうか、その辺の詰まっているところをどう解消していくのかっていうところだと思うが、現状は分かった。
- ・ 建設業界のヒアリングをしたときも、なるべく少しでも土日休めるような方向に一生懸命頑張っているって話を聞いたことがある。また、多くの建設業界なんかでも女性の進出も少しずつ目立ってきているが、そういう何か職場環境を改善していくようなコンサル的なところっていうのは一切函

館にないので、なんとなく歴史の中でずっと経営しているという会社が多いと思う。

- ・ 子供たちが家族と過ごしたいっていうのは素晴らしいアンケートで、そこを何か大事にしていきたいなというふうに思った。
- ・ 板倉委員も決算でいっぱい聞いてくださったが、若い人たちがこの地元に残る、そして就職する。——大学、東京行ったとしても、札幌行ったとしても——完結型のまちづくりっていうか、ここで最後を迎えていく。生まれて育って就職をして家族を持って、そして完結していく。そういうまちづくりという意味では、できれば若い人たちが残れることをしっかり委員会としても調査研究をしたいなという思いを深くしたところである。

#### ○荒木 明美委員

- ・ 2点質問がある。まず1点目は13ページの説明をしているときに、課長が、家族の近くで暮らしたいのに自分がやりたい仕事で働きたい職場が少なそうだからっていう説明をされていた。そのときの説明を聞くと、かつ、で結んでいる——函館にいたいのに仕事がないっていうふうには私は受けとめたが、今回のアンケート調査を見ると、函館で就職して働きたいっていう人は分岐した上で答えていて、先ほどの働きたい職場が少なそうっていうところは、函館で働きたいと思わない方に分岐して聞いているので、私はそこは家族の近くで住みたいけれどもっていう言葉で結べないんじゃないかなと思ったが、何か結べるようなデータというのは他にあるのかまず1つ教えていただきたい。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ 函館で働きたくないと言っている中には、函館で家族と一緒に暮らしたい方もいるのかなというところでお話させていただいた。ですので、そこが、かつ、という形できちんと結びつくような調査結果にはなっていない。申し訳ない。

#### ○荒木 明美委員

- ・ 分かった。もう1点が9ページにある学校卒業後函館で働きたいと思うかというところで、私はこのデータを見たときに、キーは分からないと答えた人にいかに函館で就職してもらうかということかなと思う。アンケートの調査票を見ると高校生の方は分からないでストップしているのでそれ以上のデータが取れないが、大学生の方はそれ以外にもいろいろ聞いていたりするので、分からないっていう人だけに絞った集計データっていうのはあるのか。またそれに対して何か市としての分析なりをしているのか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ 分からないと答えた方への再度の調査に関してはやっていない。

#### ○荒木 明美委員

- ・ 再度調査をしているという意味ではなく、分からないと答えた人が例えば100人いたら、その100人だけに絞った集計データを出す——分からない人たちは分からないけれども例えば函館の就職にはこういうことを魅力に感じているとか、どういう答え方をしているとかというのを全体の傾向と比べたときに何か特徴的なものがあるのであれば、そこに対する施策を行うとかできると思うが、それをするためには、分からないっていう人だけに絞ったベースのデータが必要だと思うがそういう集計はしているか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ そういった部分での集計はやっていない。確かに委員のおっしゃるとおりさらなる分析というのは必要だったのかなと思っている。

#### ○荒木 明美委員

- ・ おそらくローデータがあれば簡単に集計出てくると思うので、ぜひ有効活用してもらいたいと思う。

#### ○野沢 友志委員

- ・ 質問としては1つだが、16ページの奨学金の返還支援事業、私も分科会の方で質問させてもらったが、始まったばかりだが今くらいでどれくらいの協力いただける企業団体の方がいるのか。

#### ○経済部雇用労政課長（山村 英次）

- ・ 昨日現在で6月の予算特別委員会で、目標一般企業で30社というお話をさせていただいたが、今時点で8社登録をいただいている。今登録の事務作業を進めているので、またさらに増える見込みとなっている。私どもも先週も先ほど言った夜の会合とかそういったところに出向いて周知等々やっているの、引き続きこの数字を伸ばしていきたいなというふうに思う。

#### ○野沢 友志委員

- ・ 10ページ目の函館で働きたいと思う理由のアンケートだが、自分自身の経験としてもやっぱり家族の近くで暮らしたいというところがあったので、この通りなのかなと思っている。トップ3のお金がかからない実家のメリットだったり、住みやすいまちというのはまさにそうかなと思う。
- ・ 今日の中では相応しくないかもしれないが、若い人がこの函館に残りたいと思わせるためには経済部だけが頑張る話でもなく——函館のまちの魅力というものを若い人が心の中に持つことが大事だと思っているので——今人口減少対策本部、大泉市長を本部長に立ち上がっているが、そういった活発なところが間に合っていけばいいと思うし、このアンケートの10ページを見ると、函館に愛着があるというところがもっと伸びることが私は大事かなと思っている。私も小学3年生の息子がおり、親が少し函館を蔑んだことを言うことが、結構最近私の周りでも見てとれて、そういったことが子供に伝染ではないが、親がこの函館を好きになって函館が良いまちなんだよっていうことを伝えていくことが、函館に残りたいって思ってもらうことにも繋がっていくと思うので。そういう子供が愛着を持つことも、最終的には函館に残って働きたいって思ってもらえることに繋がっていくと思う。

#### ○委員長（山口 勝彦）

- ・ 本市の状況課題について、またその中でも若者の地元就職・定着の促進について経済部で現在重点的に取り組んでいることが確認できた。
- ・ 経済部におかれて、お忙しい中本委員会の調査に御協力いただき感謝する。
- ・ 理事者には御退出を願う。

（経済部 退室）

- ・ 資料8ページにある3点の課題について改めて認識したところだが、このうち「若者の地元就職定着の促進」については、進学、就職の機会に函館を離れてしまう若者が多い本市として現在の取り組みに加え、さらに取り組むべき方向性等を調査することが重要であると考えるところから、委員会としてもこの課題を中心に調査を進めてはどうかと考えるがいかがか。（異議なし）

- ・ 本件は先進的な取り組みを行っている他都市の取り組み等について調査研究することも必要だと考えているので、改めて皆様と協議してまいりたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ その他各委員から何か御発言あるか。

#### ○板倉 一幸委員

- ・ 先ほどの委員長の説明だと若者の地元就職の促進というか、そこを中心にとということなので、それ以外にもいろいろ人手不足の解消に係る取り組みというのがあると思うので、そこだけに限定するのではなく、総体的に人手不足の解消をどうするのかということについても議論できるように進めていただきたい。

#### ○委員長（山口 勝彦）

- ・ 本件については委員会の閉会中継続調査事件とすることでよろしいか。（異議なし）
- ・ 閉会中継続調査事件については、調査の趣旨、目的を踏まえた理由を議長に申し出たいと思う。これに御異議ないか。（異議なし）
- ・ その他本件について各委員から御発言あるか。（なし）
- ・ 議題終結宣言

---

(2) ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書について

#### ○委員長（山口 勝彦）

- ・ 北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会から、森林吸収源対策の推進によるゼロカーボン北海道の実現に向け、国に対し、意見書の提出をお願いしたい旨の要望書の提出があった。正副としては、要望書の趣旨が理解できるものであることから、本委員会から、意見書案を提出したいと考えている。意見書案については、既に委員の皆様へ配付している。
- ・ 配付のとおり、意見書案を本委員会から議長に提出したいと思うが、これに御異議ないか。（異議なし）
- ・ 条項、字句の修正については、委員長に一任願いたいと思うが、これに御異議ないか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣言

---

2 その他

#### ○委員長（山口 勝彦）

- ・ 2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣言

午前10時52分散会